

5 月 教 育 委 員 会 会 議 録

日時：令和 8 年 5 月 2 6 日（火） 午後 2 時

場所：山口県教育庁教育委員会室

（公開）

教 育 長	それでは、ただいまより令和 8 年 5 月の教育委員会会議を開催いたします。 最初に本日の署名委員の指名を行います。 和泉委員、木阪委員よろしくお願いします。 それでは本日の議題の審議に入る前に、審議の公開の可否について決定したいと思います。本日の議題のうち、議案第 1 号、議案第 2 号は、教育行政の公正又は円滑な運営に支障を生じるおそれがあることから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 4 条第 7 項」の規定に基づき、非公開とすることが望ましいと考えますが、いかがでしょうか。
全 委 員	承 認
教 育 長	それでは、議案第 1 号、議案第 2 号については非公開で審議することといたします。
教 育 長	それでは、議案の審議に入りたいと思います。議案第 3 号について、特別支援教育推進室から説明をお願いします。
特別支援教育推進室長	山口県教育支援委員会の委員の任命について御協議をお願いします。議案書の 2 ページからになります。 まず、教育支援委員会につきまして、3 ページ、別紙資料 1 を御覧ください。山口県教育支援委員会規則の第 2 条にありますように、この委員会は、県立特別支援学校に就学しようとするもの、並びに、在学する児童生徒について、障害の種類や程度の判定が困難である場合に、県立特別支援学校や市町教育委員会からの依頼に基づいて、調査審議を行う県教委の附属機関となります。また、この委員会の委員は、第 3 条第 2 項の規定によりまして、教育委員会が任命をすることとなっております。そして、第 4 条の規定により、委員の任期は 2 年となっており、今年度は委員改選の年に当たりますことから、お諮りをするものでございます。 それでは、4 ページ、別紙資料 2 を御覧ください。委員候補者について御説明をいたします。委員候補者は、いずれも障害のある児童生徒の就学相談の経験を有する医療分野での専門医、福祉分野での学識経験者、教育関係者で再任が 1 0 名。新任が 5 名の計 1 5 名となっております。このうち、新任委員 5 名について、太枠でお示ししております。1 番の松本友子候補は、山口県肢体不自由児協会から、後任の推薦が難しいとの回答をいただいたため、この度、山口県理学療法士会から推薦をしていただきました。5 番の竹永吉伸候補は、前任の松本正委員の御辞退によるもので、山口県知的障害者福祉協会から推薦をしていただきました。1 2 番の松本寿子候補は、山口県国公立幼稚園・こども園連盟の会長の交代によるものでございます。1 4 番の赤

	松康乃候補は、前任の肥塚新一委員の御辞退によるもので、山口県保育協会から推薦をしていただきました。15番の長谷川真季候補は、山口県特別支援教育研究連盟の休会に伴いまして、山口県小中学校長会から推薦をしていただきました。なお、委員の任期は令和8年6月1日から令和10年5月31日となります。 以上、御協議のほどよろしくお願いいたします。
教 育 長	ただいま特別支援教育推進室から議案第3号について説明がありましたが、意見、質問はありますか。 議案第3号について、承認することとしてよろしいですか。
全 委 員	承 認
教 育 長	議案第3号を承認いたします。
教 育 長	それでは報告事項に入りたいと思います。 報告事項1について、高校教育課から説明をお願いします。
高校教育課長	はいそれでは資料1の5ページをお開きください。令和8年3月、新規高等学校卒業者の就職状況等について御報告をいたします。 この求人、就職状況の一覧表は、山口労働局から発表された3月末現在のデータをもとに作成したものです。また、各項目上段の括弧内の数値は、昨年3月末のものになります。まず一番上のAの欄の求人数ですが、合計で6,271人であり、昨年同期の6,541人より270人、率にして4.1%減少をしております。その下のBの欄の就職希望者数については、合計で2,303人であり、昨年同期の2,334人より31人、率にして1.3%の減少となっております。減少の要因としましては、大学等への進学率の上昇が挙げられると考えられます。それからEの欄、就職内定率は99.6%であり、またFの欄の県内・県外就職内定比率を見ますと、県内は昨年同期比0.6ポイント減の80.6%となりました。県内就職内定比率は、前年同期を下回る結果となりましたが、就職内定率は13年連続で99%台の高い水準を維持しております。なお就職を希望しながら、就職先が決定しないまま卒業した生徒は、Bの就職希望者数合計の2,303人から、Dの就職内定者数合計2,294人を引いた、9人となり、前年同期に比べ3人増加をしております。今後も各公共職業安定所や山口しごとセンターなどの関係機関との連携を図りながら、就職の相談や斡旋等に努めて参ります。 次のページには、今年度の「明日のやまぐちをつくる高校生就職支援事業」の概要を示しております。この事業では関係部局と連携しながら、高校入学後の早い段階から生徒一人一人に寄り添った組織的できめ細かな就職支援を推進することとしております。 また、想定を超えるペースで進む人口減少の克服は県政の最重要課題であり、その克服に向けて県教委としても、高校生の主体的な県内就職、県内定住の促進に努めているところでございます。報告は以上です。

教 育 長	ただいま高校教育課から報告事項 1 について説明がありましたが、意見、質問はありますか。
藤 田 委 員	御説明ありがとうございました。2 つあります。 まず、就職して、卒業後の 3 年ぐらいの動向を知りたい。県外に就職しても戻ってきてる人も結構いて、そういった方達が割と民間、我々の中小企業に就職されているケースも結構多いので知りたい。 あと教育委員会の管轄ではないかもしれないのですが、今から、高校新卒の就職活動が始まると思います。今本当に民間企業は、就職、採用難で大変なんですけれども、そうすると、いろんなところから、企業が学校に押しかける傾向があると聞いております。当社はしないんですが、そこら辺はどうか規制をかけて、学校独自でも、お断りはされてるみたいなんですけど、先生方の、負担も減らしてあげて欲しいと思っています。就職指導も大変、授業も大変で、企業の皆さんは、生徒の採用が欲しいから、すごく情熱を持って訪問されるのはいいんですけど、長い方だと 1 時間、2 時間ぐらいというお話も聞いたことあるので、そういった面を、県の方からもちょっとフォローしてあげることで先生たちが、より授業に集中できるのではないかと思いますので、一つ意見として申し上げさせていただきます。
高校教育課長	ありがとうございます。初めの離職率につきましては、山口県のものではないんですが、厚生労働省が全国の状況を取りまとめて公表しておりまして、最新値である令和 4 年 3 月に卒業した高校 3 年以内の離職率、いわゆる 3 年離職率については、全国で 37.9%となっておりますので、約 4 割弱という形だと思います。大体それぐらいで、ここ数年動いているというような状況だと思います。 それから、学校には企業の就職担当者が来られ、もちろん進学の方もいろんなところから来られて、先生方にアピールされるというのは良くありますので、なかなか一律の規制は難しいかと思われます。もし仮に今後、就職状況が悪くなった時には、逆にありがたいという話になるかもしれないですし、おっしゃっていただいたように、それが先生方の負担になってくるのであれば、また考えなければならないので、どういう方法を取るか分かりませんが、問題意識は持たせていただこうと思っています。ありがとうございます。
教 育 長	その他、御意見等ありますでしょうか。
木 阪 委 員	県内就職比率が若干下がったとはいえ、それでも 80%を超えているというのは、高い数値でありまして、関係各皆様の御努力の賜物と思っております。 次の報告事項 2 に若干かかるかもしれないんですが、昨年私どもは下松のいろんな学校、いろんな大会の方にお招きいただいて、ものづくりの現場のお話も聞きました。また、先月 4 月 4 日に某放送局の方で、番組言っているのか分かりませんが、新プロジェクト X というので、じっくりと視聴もさせてもらい、視察にも行ったのですが、改めて、山口県の一事業者かもしれませんが、非常に感銘を再び受けました。やはり会社のストーリーとかを聞くと、人となりとかそ

	ういった方々の存在を知ると、また一段とその地域とかその企業への思い入れも深くなると感じております。山口県全体でそういったDNAがあるのでしょから、あるはずなので、より一層、この県内就職率80%以上キープをしていくことが課題かなとも思っております。そういった意味で、「やまぐちPRIDE」の醸成を、本当にある意味意識して急いでやっていく必要があると感じた次第でございます。以上です。
義務教育課長	今お示しいただいた、「やまぐちPRIDE」を急ぐべきではないか」という御意見の件ですが、今年度、新規事業として「あこがれの連鎖で紡ぐキャリア教育推進事業」を行います。指定区域が14で13市と1町なんですが、町については希望する町で実施しております。ここを起点として今横展開をする予定としております。当然指定校ではなくても、市によっては、県立高校との連携をとっていくと、先ほど言われたものづくりの取り組みを小学生の子供たちが見ることによって、その「やまぐちPRIDE」にかかる心の醸成が図られるのではないかと考えてますので、ここのところを全力を挙げて取り組んでまいろうと思っております。
教 育 長	ありがとうございます。県内就職比率をどうにか今年は80%キープできたという状況です。やっぱり他県の大手企業からの求人がどんどん来る中で、なかなか県内企業の採用の方も厳しい状況が続いております。特に、女子が昔は90%を超えていたんだけど切って、男子はもう76.9%ということで、去年と一緒ですけども、本当に80%を切った状態が続いてるということなので、これをどうにか県内企業の方に高校生に目を向けてもらうという流れを作っていきたいと思っております。どちらにしても地道な活動が重要なので、これをしっかりとやっていきたいと思っております。 その他、何かありますでしょうか。
和 泉 委 員	地道な努力が大切ということで、その通りだと思っております。それで、その視点からお伺いさせていただきますが、高校生の就職支援の事業、いくつかキャリアデザインの支援、セミナー等をやられておられるわけですけども、それに参加すると、県内定着率が良くなっているとか、何かそういったデータはございますでしょうか。参加した人だと9割5分が県内に残るとか。
高校教育課長	おそらく明確な数というのは、現時点で多分、明確にとってないと思います。ただ、今おっしゃられる通りで、事業の効果を考えるのであれば、そういうことも今後考えなければならないと思います。 もちろん、こちらの方の資料でお示しさせていただいてます様々な本体の事業、先ほどのものづくりに関するような産業魅力体験セミナーとか、いろいろやっておりまして、いわゆる山口県の産業の良さというのは、十分伝えているつもりではありますので、当然参加すれば、それなりに子供たちも感じているとは思いますが、しかし、明確な数字までは持ち合わせないところです。

和 泉 委 員	ぜひ参加して良かったと生徒たちが思えるような会にしていいただければと思います。よろしくお願いいたします。
教 育 長	ありがとうございます。その他御質問はありますでしょうか。
伊 藤 委 員	こういう高校生が、県外に流出するということがないように、山口県がかなり本当に力を入れてるということを、この教育委員をさせていただき、他県の情報を見ることによって、山口県の後押しがかなり大きいんだということを、しみじみと感じています。 私は周南市に在住しておりますので、周南市はやはり石油コンビナート地域なので、いろんなイベントがあるんです。高校とそれから企業、企業も本当に自助努力をされていて、いろんな高校とコラボして、いろんなことをされてます。そして、それがいろんな保護者やその関係者以外にも、見て、見える化されてるように、いろんなホームページに掲載され、そしてまた、私もこの間駅の構内で待つ時間があったんですけども、駅の構内にもそういうパンフレットが置いてあったんです。そういうこと、高校生は、あまり保護者の方に、いろんな思いを伝えないと思うんですけども、保護者がこういうことをやってるんだということを、そういうパンフレットからまたホームページから見ることによって、また、家庭内でどういうところに自分が就職したいかということを考えたときに、保護者との会話ができる、本当に今、いろんな地道な努力が、山口県はされてるなというふうに痛感しております。 周南未来サミットというのもこの前目にしまして、やはり高校生が自分の進路を考えたときに、企業の努力で、自分がその企業のスキルを見せていただくことによって、自分もこういうことを高めていきたいなということが実感できるような仕組みづくりが、本当に着々とされてるように思いました。また、企業の裏側、普通の人は入れないそういうところにも学生を入れ、また、新たな何か発見ができるような、そういう仕組みがされてることにびっくりしました。ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。
高校教育課長	ありがとうございます。先ほどの資料の方にも、県教委の方でいろいろと県内企業の魅力を伝えるセミナーとか実施しているんですけども、本当にその企業の魅力の見せ方というか、知り方というか、保護者も含めてあると思いますので、これに満足せずにしっかり山口県内に企業の良さとかそういったものをしっかり伝えていけるように頑張っていきたいと思います。ありがとうございます。
教 育 長	その他、何か御質問等ありますでしょうか。 それでは報告事項1については、以上のおりとします。 続いて、報告事項2について、引き続き、高校教育課から説明をお願いします。
高校教育課長	それでは資料の7ページを御覧ください。今年度から新たに組みんでいます、「やまぐち専門高校魅力創出事業」の概要を示しており

教 育 長 教育政策課長	ます。この事業について御紹介させていただきたいと思います。取り組みは2つの柱で構成されています。 1つ目は地元企業等と連携した「企業から学ぶローカル×テック探究プロジェクト」です。農業、工業、商業、水産、家庭の専門学科を有する県立高校において、カーボンニュートラルをテーマに年間を通じた課題解決型学習PBLを実施いたします。生徒が地域や企業の課題に向き合うことで、専門分野の学びを深め、探究的、実践的な力を育成して参ります。 2つ目は「専門高校プロモーションプロジェクト」です。12月20日に山口県健康づくりセンターで「山口スペシャリストエキスポ」を開催いたします。小中学生やその保護者を対象に、各校の特色ある学科や取り組みを紹介するとともに、企業と連携した展示体験ブースなどを設ける予定です。あわせて県内の専門高校を横断的に紹介するパンフレットや専用のホームページを作成し、専門高校の魅力や進路面での強みを分かりやすく発信する予定としております。こうした事業を通しまして専門高校への志願者の確保を実現するとともに、将来的に地域産業を支える人材の育成に取り組んで参ります。報告は以上です。 ただいま高校教育課から報告事項2について説明がありましたが、意見、質問はありますか。 それでは報告事項2については、以上のとおりとします。 次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。 次回の教育委員会会議は、令和8年6月10日（水）午前10時を予定しております。よろしくお願いします。
----------------------------	---